

多古の祭り & イベント

みんな集まれ!



本三倉のおびしゃ



今でも各地に残る「おびしゃ」は、その多くが弓を射りその年の吉凶を占うものが一般的であるのに対し、本三倉地区のおびしゃは神社への礼拝に始まり、座奉行の口上の後、一番から七番までのいわゆる式次第に沿って料理などが出されるもの。特に四番の「末那板」(まないた)では、大鯉を乗せたまな板を捧げながら、雅楽調の笛の音に合わせ舞を奉納する。その一挙一動に歴史と伝統を感じさせられます。

いきいきフェスタ TAKO



多古町の「文化・産業・健康医療」の3つの祭りをひとつにまとめて開催される町民パワー全開のお祭り。絵画・書の世界展示や音楽祭のほか、生産者自慢の新鮮な農産物の展示即売会など、多古町の産業をPRするさまざまな模擬店が会場を埋め尽くします。観て！食べて！参加して！をテーマに、誰でも楽しめる催しが盛りだくさんです。

牛尾の蛇祭り



牛尾地区に200年以上続く神事。稲わらで作られた長さ8mの大蛇が、尾に「五穀豊穡」「天下泰平」と書いた木製の剣をつけ、酒に酔った氏子衆に前後左右にもまれながら担がれて白幡神社と潮神社を目指すというもの。この祭りは、素戔鳴尊(スサノオノミコト)が八岐大蛇(ヤマタノオロチ)を退治する神話を再現したものと云われています。

多古のお祭りにかかせない多古米！「おにぎり」「どんぶり」色々楽しめるよ！
ご当地サイダー「あじさいだ〜」もおすすめ！

多古米祭り

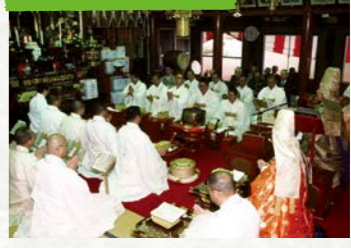


秋はコスモスが見事です
黄金色の稲穂がたわわに実る秋。新米の収穫時期に合わせて「多古米祭り」が2回に分けて盛大に開催されます。9月の第1弾「道の駅多古創業祭」では、新米つかみどりや新米試食会、ガラポン抽選会など、おもてなしイベントがいろいろ。10月の第2弾では「多古米グランプリ」決勝大会を開催。決勝大会進出者の新米を試食して優勝者を予想する企画が人気です。町の特産品のブースが並び、いずれも秋の味覚を満喫できる美味しいイベントです。

- 1月** 本三倉のおびしゃ (側高神社) 中旬
- 11月** 牛尾の蛇祭り (白幡神社・潮神社) 15日直前の日曜日
いきいきフェスタ TAKO (多古町コミュニティセンター) 下旬
- 10月** 多古米祭り (道の駅多古) 9月下旬 10月下旬
- 7月** 祇園祭・しいかご舞 (八坂神社) 25日・26日
- 6月** あじさい祭り 上・中旬 (道の駅多古「あじさい館」、あじさい公園)
- 4月** 妙光寺千部会 (妙光寺) 3日・4日

イベントのプチ情報をわたしが紹介!

妙光寺千部会



千部会とは、祈願や追善のために経典を千人で唱える、または一人の僧侶が千回唱える法会です。参道から境内にかけて植木や花などの市が並び、多くの参拝客が訪れます。



春は菜の花が咲き誇ります

多古祇園祭



氏子4町の中でも、新町の山車は江戸時代に作られたと云われていますよ。しいかご舞の雨蛙掛け、通称「まんじゅう」と呼ばれてるよ。なんだろう？

江戸時代から続く夏の風物詩。お囃子の音色と威勢のいい掛け声と共に山車が町中を引き廻され、山車の上では艶やかな舞いが披露されます。山車のきしむ音とともに、人、町が沸く2日間です。26日の夜には、華やかに花火も打ち上げられ、祭りの終焉を彩ります。

しいかご舞



豊作、無病息災、子孫繁栄などを願う農民たちの素朴な舞で、氏子若衆が猿、獅子、鹿、雨蛙に扮して踊ります。中でも10mの高さで披露される猿の曲芸に見る人は圧倒されます。千葉県無形民俗文化財の指定を受けています。

あじさい祭り



栗山川の両岸に約1万株のあじさいが鮮やかに色づく初夏、町の花「あじさい」をテーマにした「あじさい祭り」が盛大に開催されます。あじさい公園を中心に、郷土芸能の発表やコンサートなどが行われるほか、江戸時代さながらの衣装を身にまとった町民が大勢で町中を練り歩きながら多古町のブランド米「多古米」を振舞う「多古米振舞行列」や、地元の特産品などを販売するテントが所狭しと会場に立ち並び、多くの観光客で賑わいます。

伝統的なお祭りのほか、たくさんのお花のイベントがあるよ！子どもたちもみんな楽しそうだね。